

2023年 新政クラブ視察報告

【視察項目】 田辺市熊野ツーリズムビューローについて

【報告者】 鈴木ひとみ

【訪問日時】 令和5年11月7日9時～10時

【訪問場所】 和歌山県田辺市役所

【対応者】

(敬称略)

田辺市議会事務局 事務局長 前溝浩志

田辺市役所商工観光部 観光振興課

課長 中野哲二

田辺市役所商工観光部 観光振興課

観光振興係 係長 坪井伸仁



【視察目的】

田辺市の熊野ツーリズムビューローについて、立ち上げの経緯、考え方、取り組みを学び、館山市の観光政策に生かす。

【田辺市の概要】

人口 68,681 人

世帯数 34,879 世帯

面積 1,026 km² 和歌山県全体の面積の約 5 分の 1、近畿最大の面積を有する。

森林面積が約 9 割を占める。

「紀伊山地の霊場と参詣道」が平成 16 年 7 月に世界文化遺産に認定された。

翌年田辺市は龍神村、中辺路村、本宮町、大塔村と合併して(新)田辺市となった。

【視察内容】

合併当時、各市町村に観光協会があり、それぞれの特徴を生かすため、観光協会は統合せず、それぞれの強みを生かすことになった。世界文化遺産認定により、大型バスによる団体客が訪れたが、大きな宿泊施設がなく、街道沿いに小さな宿泊施設が点在している熊野一帯にはなじまなかった。また、ブームも3年といわれていた。そこで、

欧米豪を中心とした海外の個人観光客をターゲットとする田辺市熊野ツーリズムビューローを立ち上げるようになった。

受け入れ態勢を整えるために、コミュニケーションセミナーを60回行い、バスの時刻表、宿泊施設や観光案内の英語版を作成した。この取り組みの中心になったのは、カナダ人のブラッドトールで、彼が外国人の目線で必要なものを整えていった。

観光戦略の5つの基本スタンスを作り、上質で日本の自然と文化を理解しようとする観光客を招くことにつなげている。富士山や京都などでみられる、オーバーツーリズムによる弊害は起きていない。

熊野ツーリズムビューロー

5つの基本スタンス

- ・ブームよりルーツ
- ・インパクトを求めずローインパクトで
- ・マスより個人
- ・乱開発より保全・保存による活用
- ・世界に開かれた上質な観光地に



これにより海外から高い評価を受け、多くの外国人が訪れる場になっている。コロナ禍で一時外国人観光客が来られなくなったが、現在はコロナ前以上の多くの外国人観光客が日本の自然と文化を味わうために訪れている。



同じく世界遺産参詣道であるスペインの「サンティアゴ巡礼道」と「熊野古道」の共通巡礼達成者を登録するプロジェクトを2015年からスタート。2023年10月末現在で5,284名が達成している。熊野ツーリズムビューローの成功は、観光資源を分析し、それを生かす戦略を立ててターゲットを決め、受け入れ準備をしっかりと行ったことにある。欧米豪からの観光客を招くためにカナダ人のブラッドトールをキーパーソンとし、彼の指示で受入れ体制づくりをしたことで、海外からの上質な客を満足させることができている。

【所感】

館山市は、明確な観光戦略を持っていない。市の持つ資源を分析し、それを生かす

ための観光客のターゲットを明確にし、そのターゲットを迎え、満足していただくための準備を行うことが必要である。現在、東京圏の観光客、インバウンドは台湾に限っているが、より客単価を増やすために、関西圏からの観光客や欧米からのインバウンドを招くことも必要ではないだろうか。

まずは、現状を分析し、何を生かし、何を变え、加えていくかを観光業界、市内の飲食・小売店、行政も加わって検討することが必要と考える。

